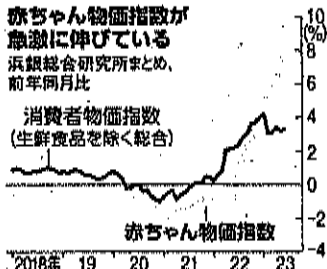


# 物価高 育児世代を直撃

## 「赤ちゃん物価指数」9.3%アップ



赤ちゃん5品目の物価動き  
6月の消費者物価指数

粉ミルク	17.2%
紙おむつ	7.2
乳児服	3.3
人形	10.0
玩具自動車	12.7

神奈川県藤沢市の助産師の女性(27)はこの春、第3子となる女児を生んだ。1年間の育児休業を取得して、リモートワークが中心の会社員の夫(29)と子育てに励んでいる。子どもが2人以上ほしいという願いはなくなったが、目下の悩みは物価の高さ。「1人になお金がかかると……。でも出費は減らせないので、やりくりが大変です」

例えは紙おむつだ。長男(1歳10カ月)が生まれたときは月3千円ほどだったのが、いまは4千円。それが2人分かかる。ベビー服も成長にあわせて買い替えるなければならない。1シーズンに1万円ほど使う。

子育てに手がかかると、ほかの家事は極力減らしたい。食卓にスーパーの総菜を採り入れたら、食品値上げの影響もあり、月の食費は2年前の1.6倍に膨らんだ。「上の子はとんどん食べるようになるし、下の子は離乳食が始まる。いつまで値上げが続くのか」

物価高が子育て世代の家計にどのくらい影響しているか――。

浜銀総合研究所の蓮藤裕基・上席主任研究員が試算した「赤ちゃん物価指数」をみると、6月は前年同月比9.3%上昇した。

長引く物価高が子育て世代を直撃している。働く時間が減って収入が少なくなりがちなうえ、粉ミルクや紙おむつの値上がりも、家計に重くのしかかる。横浜銀行グループのシンクタンク、浜銀総合研究所の研究員が考案した「赤ちゃん物価指数」をみると、消費者物価指数を大きく上回る伸びを示している。

粉ミルク 17.2% ↑  
紙おむつ 7.2% ↑

これは総務省が毎月発表している消費者物価指数から、「粉ミルク」「乳幼児用紙おむつ」「乳児(ベビー)服」の必需3品目と、「人形」「玩具自動車」の計5品目を一定のウェイトに基づいて合成したもの。

実際に6月の消費者物価指数と比較すると、生

鮮食品を除く総合指数は前年同月より8.3%上昇している。赤ちゃん物価指数は3倍近い伸びを示したことになる。品目別では、粉ミルクは17.2%、紙おむつは7.2%アップ。乳児服は3.5%下がったが、人形は10.0%、玩具自動車は12.7%上昇した。

赤ちゃん物価指数は、2022年後半から上昇のピッチを速め、消費者物価指数を上回る水準で推移する。必需3品目の6月の指数は7.2%上昇し、試算に必要な統計がそろった1990年以降で最も高い伸びを示した。

乳業大手の明治は粉ミルクを昨年11月と今年6月の2回、値上げした。主力の「ほほえみ」(800g入り、0～1歳児用)は、税別の希望小売価格2690円が3053円になった。花王も紙おむつ「メリーズ」の出

分、ほかの家事は極力減らしたい。食卓にスーパーの総菜を採り入れたら、食品値上げの影響もあり、月の食費は2年前の1.6倍に膨らんだ。「上の子はとんどん食べるようになるし、下の子は離乳食が始まる。いつまで値上げが続くのか」

物価高が子育て世代の家計にどのくらい影響しているか――。

浜銀総合研究所の蓮藤裕基・上席主任研究員が試算した「赤ちゃん物価指数」をみると、6月は前年同月比9.3%上昇した。

これは総務省が毎月発表している消費者物価指数から、「粉ミルク」「乳幼児用紙おむつ」「乳児(ベビー)服」の必需3品目と、「人形」「玩具自動車」の計5品目を一定のウェイトに基づいて合成したもの。

実際に6月の消費者物価指数と比較すると、生

東京電力など大手電力7社が6月に家庭向けの規制料金を値上げしたため、電気代は前月より8.2%上がった。だが、直近の燃料価格は落ち着いている。政府の補助金の効果もあり、前年同月比でみると12.4%下がった。都市ガス代も2.8%下がり、1年9カ月ぶりに下落に転じた。7月も下がる見通しだ。

生鮮食品を含む総合指数は、1月に4.3%を記録して以降は3%台で推移し、6月は3.3%。3.0%まで鈍化している米価を8年ぶりに上回った。

荷価格を昨年4月に約10%引き上げ、その後も改良品を出す際には値上げしている。

蓮藤さんは昨年5月に長男が生まれ、子育てにかかるモノの高さを実感した。そのことが「指数」を考案するきっかけになったという。「必需3品目は代わりとなる商品がなく、量を減らせない。子育て世代にとって物価高は待ったなしの課題。紙おむつや粉ミルクを支給したり、好みの商品と交換できるクーポンを配ったり、自治体はスビーティナーな対応を考えてほしい」と話す。

国は児童手当として3歳未満の子どもは1人あたり月1万5千円を支給している。さらに独自の手当を支給する自治体もあるが、物価高で「実質」の額は目減りしている。藤沢市の夫婦も頃の手当を受け取っているが、将来に備えて貯金しているという。「大学進学時にはっとお金がかかる。いまの生活費に充てるより、少しでもプールしておきたい」(米谷園)

## 6月消費者物価 22カ月連続上昇

6月の消費者物価指数(2020年=100)は、値動きの大きい生鮮食品をのぞいた総合指数が105.0で、前年同月より8.3%上がった。

電気代の値上げで上昇率は2カ月ぶりに拡大。食品の値上がりも止まらず、上昇は22カ月連続となった。

▽経済面＝値上げラッシュが続く。総務省が21日発表した。品目別では、生鮮食品をのぞく食料が9.2%上がり、高水準の上昇が続いている。とくに夕

マコの値段が高止まりし、35.7%アップした。国産の豚肉も9.4%、食用油も16.5%上がるなど、食卓への影響は厳しいとみられる。